

平成27年度 建設厚生委員会 行政視察報告書

報 告 者

委員長 森脇悦朗 副委員長 島田修二
委員 坪内涼二 多田伸治 河野正行
田中直文 永岡静馬

視 察 項 目

1. 岐阜県土岐市 自然科学研究機構 核融合科学研究所
【平成27年8月4日（火）】
 - ・核融合科学研究について
2. 滋賀県守山市
【平成27年8月5日（水）】
 - ・すこやかチャレンジ事業の取り組みについて
3. 島根県松江市 松江市観光協会玉造温泉支部
【平成27年8月6日（木）】
 - ・タマステージの取り組みについて

行政視察報告

建設厚生委員会

委員長 森脇 悦朗

1. 視察先 岐阜県土岐市 核融合科学研究所

【日 時】 平成 27 年 8 月 4 日 (火)

【視察内容】

研究所の事業説明と見学

【視察目的】 江津市議会と交流している核融合科学研究所を表敬訪問し、研究の成果や実験の状況を伺い、将来の発電事業の可能性について調査するため。



【所感】 研究所の訪問は 2 度目であったが、核融合のしくみなど忘れかけていた。しかし、高畑教授の丁寧な説明により再認識することができた。世界最大の超電導プラズマ実験装置である大型ヘリカル装置による核融合実験により、温度で 9400 万度を達成し、目標の 1 億 2000 万度まで 5 年以内に達成するとされた。また、持続時間も 48 分と目標の 1 時間に近づき発電施設の設計できるところに近づいたとのことであった。

また、予算の付き方はこれまで通りではあるが、増えることはなく計画が遅れ気味であることや国民全体に「核」アレルギーが依然としてあり、若い人に安全な新エネルギーの研究であることを知らせる仕組みについて、課題があるとのことであった。我々も機会があればこの素晴らしい施設について市民や学生に伝える必要があると再認識した。

尚、我々の視察中実験施設内において補修工事をされていたが、視察後間もなくそこで溶接作業中に火災が発生し、1 名の方が亡くなり 1 名の方が怪我をする事故が起きたことを全国ニュースで知り、大変驚いた。

関係各位に対してお見舞い申し上げます。

2. 視察先 滋賀県守山市

【日 時】 平成 27 年 8 月 5 日 (水)

【視察内容】

①すこやかチャレンジ事業について

【視察目的】 医療や介護がなどの支援が必要とする人が増え、高齢者が増える中、健康で、生きがいを持って住み慣れた地域で住みつけていただけるよう「すこやかまちづくり行動プラン」を策定し、「健康づくり」「生きがいづくり」「在宅支援」を柱に事業を進めている守山市におじゃまし、特に「すこやかチャレンジ事業」について調査し、本市に提言するため。

【所感】 「すこやかチャレンジ事業」は、健康的な生活習慣の定着化を支援するためのポイント報奨制度であるが、3年間の成果として、参加者も改善を重ねながら着実に増え、特に30～40代の親子での参加者が増えるなど取り組みの成果があった。合わせて、アンケートにおいても、食生活に気をつけるようになったとか運動習慣が増えたまた、健診データが改善したという回答もあり、医療費削減の効果は計り知れないが、健康づくりに効果があったと回答する方が90%と良い印象を持った。また、「わ」で輝く自治会応援報奨事業の活用により、自治会を巻き込みグループ単位での参加者が増えるなど特色ある取り組みをされていた。

また、総事業費が500万円前後で、社会資本整備総合交付金いわゆる「まち交」による特定財源もあり、少ない財源で事業の取り組み次第では、健康や生きがいづくりに対して大きな効果があると実感できた。健診受診率の落ち込みや医療費が多大となっている本市にとっては参考とすべき点が多々あったと思う。合わせて、島根県でも65歳以上の健康寿命を上げる取り組みに力をいれているが、医療費削減のためには、介護に頼らず長生きするための具体策を検討すべきと考える。

3. 視察先 島根県松江市 松江市観光協会玉造温泉支部

【日 時】 平成27年 8月6日 (木)

①タマステージの取り組みについて

【視察目的】 玉造温泉はかつての賑わいを取り戻すために様々な事業を実施された。その内夏休み中毎日夏祭りを実施するという「タマステージ」の取り組みについて調査し、本市において来年オープンする江津駅前の公共複合施設の集客や有福温泉の集客を視野に本市の観光施策に提言するため。

【所感】 まず、視察前日に実際に「タマステージ」と「キッズ夜店」を見学し、平日にもかかわらず多くの観光客で賑わっていたことに驚いた。ステージのロケーションも良く、1部で日替わりのライブと2部では「安来節・どじょうすくいショー」により観客を飽きさせず、「キッズ夜店」では、来場した子どもたちとともに大人たちが楽しんでいるという印象を持った。



翌日の観光協会では、「劇的！大改造玉造温泉ビフォーアフター」というスライドでの分かりやすい説明により、10年前の状況から活性化のためのプロセスから収支状況まで良く理解できた。特に印象に残ったのは、①イベントは誰のために何のためにやるのか。②パンフレットなど無料のものを無料の価値で作ってはだめ。（こちらから置いてもらうのではなく、向こうから必要とされるものを作る）

また、テーマを「美肌・姫神の湯」ターゲットを「20代30代の女性」と決めて取り組んだことで、具体化しやすくなったことと、普通考えられない毎日の夏祭りと言う発想は、夏場の集客には週末だけでは意味がないことから必然的に実施につながっている。収支においては、松江市からの補助金は6年前と変わらないが、事業収益が3倍近くになるなど自主財源の確保により、様々な取り組みが実施でき正に参考となる事例であった。

玉造温泉街活性化のキーマンであるお二方、周藤氏と角氏から直接話を聞くことができたことと合わせて、朝から晩まで忙しい中、丁寧な対応をしていただいたことに感謝いたします。

建設厚生委員会行政視察報告

島田修二

平成27年8月4日～6日

視察内容

1. 岐阜県土岐市 自然科学研究機構 核融合科学研究所

*核融合科学研究

【感想】 広報委員長の高橋一也氏に説明を受け研究所の見学をした。研究自体は財政的な問題で予定とは遅いペースで進んでおり、国からの支援が核融合発電の実現を早めると考える。まだまだ、核融合を利用した発電についての安全性や効率性について国・国民の理解度が低く実現に向けての障害になっているのでは。

2. 滋賀県守山市

*すこやかチャレンジ事業

【感想】 ポイントをためて健康&ハッピーをキャッチフレーズに市民の2パーセントの参加を目的に事業展開をされていた。本市も介護・医療費などが高騰している現在、何かの方策をもって市民の健康についての意識高揚が必要と考える。例えば、本市のイキイキスポーツクラブを利用して健康についての意識の高まり、増進を図ることで介護・医療費などを縮小、また、元気で長寿のまちづくりに繋がるのでは。

3. 松江市 松江市観光協会玉造温泉支部

*タマステージの取り組み

【感想】 夏休み期間49日が毎夜にぎやかなことに現場を見学して驚いた。どのような仕掛けでこのような状態になるのか興味。仕掛け人の説明では、現状把握・テーマ・目的・発想・継続・失敗を恐れない、などなど、当たり前のことを当たり前に、ぶれずに継続することが大事であると。納得。本市もにぎわいのあるまちづくりに取り組んで行くには新たな発想をもって、当たり前のことを当たり前に行うことが大事になってくるのでは思う。

平成 27 年度 建設厚生委員会 行政視察報告

坪内 涼二

■岐阜県土岐市

視察内容：核融合科学研究所

大学共同利用機関法人という中核的研究拠点である「核融合科学研究所」は、ノーベル賞クラスの研究が行われ、学位授与の機能を持つ総合研究大学院大学でもあり、高度な研究環境を活用した若手人材育成が行われています。

【原子力発電】は重い原子の原子核が「分裂」して、別の軽い原子核になるときのエネルギーを利用して発電する一方、今回視察した【核融合発電】は、軽い原子の原子核同士が「融合」して、別の重い原子核になるときのエネルギーを利用して発電するものであるということが説明により分かりました。

特長として、海水からエネルギーが取り出せ、水 3 リットルに含まれる重水素とリチウム 0.3 g を燃料として、日本人 1 人が年間に使用する電気をまかなうことができ、CO₂ を排出しないことから地球に優しいエネルギーとして、世界のエネルギー消費量が増えるなか、注目されています。

現在は、研究段階であり、世界に 1 基も核融合発電所はなく、30 年後に日本に 1 基作るため日夜研究を進められています。本市も風力、太陽光、バイオマス等の自然エネルギー発電には積極的に取り組んでおり、本市議会としても複数回、同施設を訪問しているところでありますが、議員自らが自然エネルギーに対する意識を高め、市民の電力や環境に対する意識を醸成していく上でも、今後、同施設との連携・情報交換を図っていくことが、重要であると視察を通して感じました。



■滋賀県守山市

視察内容：すこやかチャレンジ事業

「すこやかチャレンジ事業」は、市民の健康的な生活の定着を図るためのポイント報償制度であり、貯まったポイントは商品券（上限 1,000 円）等に交換、寄付することができます。市民の健康意識を高め、継続した取り組みを促すため、平成 24 年より事業開始となり、参加者は増加傾向にあります。

「健康づくりに効果があったか」の問に対して、「おおいにあった」、「まあまああった」と答えた回答者が 80%を超え、減量や健康データが改善、検診を受けるきっかけになったという回答もあり、着実に参加者の健康に対する意識が高まっていることがアンケート結果から窺えました。

また自治会の取り組みを奨励し、自治体で健（検）診率向上への取り組みや、健康づくりに資する事業の実施を促し、「わ」で輝く自治会応援報償事業として取組事業数や世帯数に応じて定めた報償額を支給しています。元来、自治会加入率が 95%を超える地域であるとのことでしたが、これらの取り組みにより、自治力の高まりやコミュニティの活性化に繋がっていると推察できました。

尚、守山市は関西圏のベットタウンということもあって、人口が増加傾向にあります。1980 年に 4.7 万人だった人口は、2014 年時点では 8 万人に増加しており、人口減少が加速する本市とは状況が大きく違います。国民健康保険料を抑制することを目的に導入された制度ではありますが、現状、参加者のなかにはもちろん社会保険加入者もあり、国保加入者に限った統計が難しく、制度導入による国保料抑制の実現が図られたかどうか検証できていないとのことでした。しかし、守山市の人口が増加傾向にあることや、健康寿命県内 1 位を目標に「すこやかまちづくり行動プラン」を策定、実施していることなどを考えれば、制度導入の成果が現れていることを物語っていると感じました。

本市においても、国保料抑制は大きな課題であることから、市民一人一人が、健康に対する意識を高め、日々健康に対する取り組みを地道に展開していくことで、誰もが健康で、生きがいを持って暮らしていくことができると思います。その上で、報償制度を利用することで、参加意識を高める有効な手段であることが理解できました。



■ 島根県松江市

視察内容：松江市観光協会玉造温泉支部

団体客が減少し、温泉街の店が相次ぎ閉店し、ゴーストタウンと化していった玉造温泉は、平成18年84.6万人だった入込者数は、平成26年114.3万人を超えるまで回復しました。温泉街活性化のために「玉造温泉街活性化プロジェクト会議」、「松江観光協会玉造温泉支部」、「玉造温泉まちでこ」（民間まちづくり会社）の3つの組織が立ち上がり、元玉湯町助役の周藤実氏を中心に活性化に取り組んでられました。

まず最初にまちづくりのテーマを決めることから始め、古代神話や出雲国風土記の記述から「美肌・姫神の湯玉造温泉」をテーマとし、ターゲットを20～30代の女性に設定しました。

これまで長年続けてきた祭・イベントを中止し、観光イベントの見直しを図り、夏休み期間中の45日間毎日開催する「玉造温泉夏祭り」を開催した。その際、「誰のために」、「何のために」やるのかを重視し、宿泊客のために、「祭」の起源である1年蓄えた財を持ち寄るという趣旨のもと、祭りで儲けるのではなく、「タマステージ」や「キッズ夜店」でにぎわいを創出し、荷物にならないお土産を持ち帰ってもらうことを重視し、イベント運営をされていました。



「タマステージ」第1部では、市民バンドやサークルが主体で、上手い下手ではなく、日頃の活動成果を発表する場として活用してもらい、宿泊客をもてなし、いかに楽しませるかという主旨に沿って出演団体を選定しています。近年は参加依頼が増え、主旨にそぐわない団体は断っていることでもあった。また第2部では、芸能を生業としているプロを対象に出雲神楽と安来節を中心に郷土芸能を宿泊客のために上演しています。ステージ設備や音響、電気設備等も同様であるが、出演料も45日間の長期対応により、コストを削減している。

「キッズ夜店」は子ども連れ家族向けに1回200円の射的や輪投げなどのゲームを行っている。200円のうち半額は景品でお客様に還元し、残りはアルバイト代などに利用し、儲けはないとのことであった。我々が視察した日は平日にも関わらず、多くのお客様で溢れ、盛り上がりのあるイベントであった。



視察を通して、観光資源を活かしたテーマを設定し、「誰のため」、「何のため」にイベントを行うの

かが明確でした。本市においても、有福温泉という地域資源を有しており、温泉街の活性化による観光客誘客は喫緊の課題ですが、まずは温泉街を活かしたまちづくりを行う母体となる組織がしっかりと議論し、方向性を打ち出すことが必要であると感じました。

また江津駅前では公共複合施設やホテルの建設が進んでおり、完成後は中心市街地の活性化、にぎわいの創出が必要となってきます。駅前地区においては、商店会やNPO法人を中心に役割分担がなされ、にぎわい創出事業が展開されており、今後は公共施設を核としたソフト事業の展開が必要になることから、今回の玉造温泉に習い、活性化に取り組むべきと感じました。



2015年8月14日

建設厚生委員会での行政視察についての報告

多田 伸治

8月4～6日の日程で3カ所を視察しました。

☆岐阜県土岐市

核融合科学研究所

研究所での説明によれば、核融合による発電の実用化には少なくとも30年はかかるとのことで、実際に運用する融合炉の建設には1兆円の経費が必要であることも示されました。

また、技術的な面では原発にくらべてリスクの低さが謳われているものの、放射性物質が発生しないわけではなく、その点を含めての安全性への議論では肯定的なものから否定的なものまで様々あるため、さらなる検証を進めるとともに、実用化の際には施設周辺の地域住民との対話・説明が不可欠と感じました。

視察直後に研究所で火災が発生し、残念ながら作業をされていた方が亡くなられたことについては、お見舞いを申し上げます。

☆滋賀県守山市

すこやかチャレンジ事業

守山市は琵琶湖畔南東に位置する人口約8万人の市で、近畿圏のベッドタウンであり、人口が毎年500人程度増加しています。視察対象の「すこやかチャレンジ事業」は、年間予算約500万円で平成24年度から実施されている事業です。

事業としては、日常の運動や食事などでの健康づくりや、病気予防のための検診・健診の受診に対して、事前登録した参加者へ市独自のポイントを付与し、貯まったポイントと賞品や商品券・利用券を交換するというもので、市民の健康対策への意識啓発を図るものです。すでに4年間の取り組みがあり、徐々に事業への市民の参加数が増えてきています。

ただ、昨年度と今年度で大幅に参加者が増えてはいるものの、市民の2%が参加しているに過ぎず、大きな課題が残っている状態です。

また、事業の目的としては「啓発」にとどまっているのが現状です。健康づくりに関する事業を視察する上で最重要の着眼点は、「がん検診や特定健診(メタボ健診)の受診率の向上」「国民健康保険での医療給付費や生活保護での医療扶助

費の削減」など、地方自治体の抱える最大の問題である財政難の克服に資するかどうかするという点にあります。しかし、守山市の独自の状況もあるのか、「すこやかチャレンジ事業」はそこまでの取り組みではありませんでした。

もし今後、江津市で同様の事業を実施する場合には、具体的な成果を目標に設定した計画が、絶対的に必要となります。

☆島根県松江市

玉造温泉夏まつり

松江市の玉造温泉では、観光協会玉造温泉支部が主体となって、夏休み期間である7月中旬から8月末まで、毎夜イベントを開催しています。

特設ステージは20時から2部構成となっており、日替わりで様々な出演者が登場しています。毎日のイベントを始めた当初は演者が集まらないこともあったものの、現在は応募を断らざるをえない状況となっており、実際に視察を行った8月5日も吹奏楽と安来節が多くの人を魅了して楽しませていました。また、キッズ夜店にも多くの来場者があり盛況でした。

イベントやキッズ夜店の運営については、収益性を追求するのではなく、来場者に楽しんでもらうことを主眼としており、玉造温泉全体の来客数増へ貢献することに重きをおいています。また、運営スタッフも玉造温泉の各旅館の持ち回りで当たっており、そのことが玉造温泉全体で雰囲気盛り上げることに一助になっているのではないかと感じました。

上記のように、収益性を追求していないため、最低限度の人員・資材で運営できるようになっており、イベント開催に必要な事業費は700万円弱となっており、一日あたりでは約15万円程度となっています。このことは、今後完成する江津駅前公共施設のイベント広場や、同じ観光地である有福温泉での取り組みへ大いに参考となるものです。

玉造温泉での取り組みは、行政ではなく民間主体だからこそできたことでしたが、当然ながらハード面では行政の協力も必要とされています。実際に、玉造温泉では河川敷にステージを設置しており、その周辺整備は県が担当しています。それでも豪華な箱ものを建設する必要はなく、必要最低限の行政の支援で集客獲得を果たしており、江津市での中心市街地活性化や観光入込客増への取り組みの指針として、取り入れる価値があるのではないのでしょうか。

平成27年度 建設厚生委員会 行政視察報告書：河野正行

・ 日 程：平成27年8月4日（火）～6日（木）

・ 視察先：岐阜県土岐市 核融合科学研究所
滋賀県守山市 すこやかチャレンジ事業
島根県松江市 松江市観光協会 玉造温泉支部

【岐阜県土岐市：核融合科学研究所】

詳しく丁寧に説明していただいた高畑教授とは3年ぶりの再会となりました。今回は点検中ということもあり、内部も詳しく案内していただきました。研究費が減少していると言うことで、まだ完成まで30年以上はかかるとの見通しでした。しかし、着実に実現に向けて動いているとの話に、我々の子どもや孫の時代には核融合発電が行われているのではないかと期待しております。

最後に、我々が研究所をあとにした5分後に火災事故があり、犠牲者とけが人が出たとの報道を夕方聞きました。心よりのご冥福とけがをされた方の一日も早いご回復を心よりご祈念申し上げます。

【滋賀県守山市：すこやかチャレンジ事業の取り組み】

「住みやすさ日本一が実感できるまち守山」をめざしたまちづくりのため、健康づくり、生きがいくくり、在宅支援の3つを基本とするすこやかまちづくり行動プランを策定し、健康的な生活習慣の定着化を支援するためのポイント報償制度の「すこやかチャレンジ事業」を展開している。自治会での参加やグループでの参加等を積極的に進めている。たまったポイントは商品券に交換や市内の各保育園・学校・自治会に寄付できたり、抽選で賞品が当たったりと参加意欲を高める努力を行っている。年々参加者が増えており、最終年度である今年度の結果が期待されます。

【島根県松江市：「タマステージ」の取り組み】

前夜、委員会メンバーで現地を訪れ、実際行われている様子を見学させていただきました。「今夜（8月5日）はいつもより少ない。」という担当者からの感想だったが、十分観客がいて、賑わいにあるイベントだった。

翌日は朝から研修していただきました。10年前からの玉造温泉への入込客の減少に危機感を覚え、玉造温泉活性化のために3つの組織が立ち上がり、まちづくりのテーマを「美肌・姫神の湯 玉造温泉」「ターゲットは20代～30代の女性」と定め、まちづくりの匠、周藤実氏が積極的に行動し現在がある。同氏は、「誰のために、何のためにやるかが大切」をモットーにまちあるきの目的づくり、フリーペーパーの魅力化、観光イベントの見直し、パンフレットの見直し等様々な改革を行い、入込客を1.5倍に増加させている。収入面は松江市からの補助金は依然とほとんど変わらないが、収益事業が増え倍近い収入となっている。

最後に、担当者からの「これで満足していたら元に戻ってしまう。常に新しいことを考えないと行けない。」という言葉は、重たい言葉だった。

H27年8月14日
建設厚生委員
田中直文

建設厚生委員会行政視察報告

期 日： 平成27年8月4日～6日
視察先： 土岐市、守山市、松江市

視 察 内 容

1. 核融合エネルギーについて——核融合研究所（岐阜県土岐市）

- ・東日本大地震後、地球にやさしいエネルギーはより身近な問題となっている。
- ・核融合エネルギーは化石燃料に代わる新たなエネルギー源として、核融合科研究所を中心に研究・開発が進められている。
- ・平成21年に江津市議会は、低炭素社会を目指した将来のエネルギー源に関心を持ち、視察したが、核融合プラズマの条件である、高い温度が9千度（目標1億2千度）、保持時間45分（目標1時間）などと当時より研究が相当進んでいる。
- ・核に対する拒絶反応が強いが、核融合と核分裂との違いなど早い段階で学校教育の場での啓発をすすめていた。（外国では小学校段階で教育）

所 見

7年前に江津市議会（当時、私が建設委員長）として視察した時から核融合の技術開発が格段に進んでおり、近未来に核融合エネルギーと再生エネルギーを合わせて使用する時が着実に近づいていると実感した。当市は、自然環境を利用した再生エネルギーの促進に取り組んでいる先進地として自負しており、大河、海に面し、核融合施設条件の適地であり、関心を持っていることをPRしておいた。視察終了直後、同研究所にて火災事故が発生したことに心よりお見舞い申し上げます。

2. すこやかチャレンジ事業について——滋賀県守山市役所

- ・守山市は人口が毎年1%増、高齢化率19%、住民の住み易さ毎年全国トップクラス。
- ・この事業は市民自らが運動や食事にかかる日頃の健康づくりの目標を立て、その目標を達成した場合、健康診査やがん検診を受診した場合、また健康イ

ベント等に参加した場合、市からのポイント報奨制度で、平成24年度からスタートして4年目を向かえている。

- ・事業取り組みの動機は糖尿病等の成人病者数が増え、健康面、医療費面などの対策が必要になったことだ。
- ・「すこやかまちづくり行動プラン」の一環として位置づけている。
- ・自己申告制でもあり、現在の参加率は1.6%（市議会議員はゼロ）。目標は当面2%だ。
- ・参加年齢構成は40歳代が一番多い。次が60歳代。
- ・子どもたちは20歳以上の家族と一緒に参加できる。啓発活動の一環として。
- ・たまったポイントは商品券に交換。市内の各園・学校・自治会等に寄付できる。
- ・参加率が低いので今後の事業展開として、自治会、婦人層、学校等へ周知を図っている。

所 見

この事業の成果は顕著には出ていないが、40代の参加が急増しており、申告制は自己啓発につながり、展開が広がると推測できる。江津市においては、報奨制度は難しいと思うが、健康・医療検診等の福祉・介護施策は予防や、次世代を見据えて30台、40代から重点的な啓発を進めていく必要性を感じた。

3. 「タマステージ」事業についてー 松江市玉造温泉町

- ・7月18日から連続45日間、夜間に河川敷を有効活用した野外特設ステージにおいて大変な賑わいを見せている。
- ・一部で地元の芸達者なものが披露する日替わりステージ。出演希望者殺到。二部で安来節や出雲神楽。プロ、セミプロで観客を楽しませている。
- ・きっかけは、温泉団体客の減少、閉店の店が多くなった、まちあるきされない温泉まちになったことで危機感を持ったこと。
- ・再生策の仕掛け人は、元玉湯町役場助役。活性化の為に平成18年に組織を立ち上げ、まちづくりのテーマを神話や出雲国風土記の記述などから「美肌・姫神の湯 玉造温泉」「ターゲットは20代30代の女性」をまちづくりのテーマとした。差別化を図った。
- ・組織は旅館業、商工会、飲食店、自治会、など地域全体を巻き込んだ3つの組織を立ち上げ一体感を醸成した。

所 見

この事業展開で、組織立ち上げ当時より年間30万人の入込客の増は画

期的だ。同時に街に活気が取り戻せている。当市にも似た観光資源がある。「良質な湯」「福のある湯」を前面に出しターゲットを絞り、差別化した取り組みが必要だ。何より、地域住民が同じ方向性を持って活性化を図る必要がある、そして当市の観光振興の弾みにしたい。

平成27年8月10日

江津市議会議長 藤田 厚様

平成27年度 建設厚生委員会行政視察報告

建設厚生委員会委員 永岡静馬

【日程】

平成27年8月4日（火）～8月6日（木）

【視察先】

1. 滋賀県 守山市

「すこやかチャレンジ事業について」

2. 島根県松江市玉造温泉

「タマステージについて」

【視察報告】

1. 滋賀県 守山市

「すこやかチャレンジ事業」について

～住みやすさ日本一を実感できる守山市をめざして～

〔事業の概要〕

20歳以上の守山市民の方を対象に、「運動系の目標」と「食事系の目標」を自分で決めて、毎日取り組む。目標を達成できた場合や、健康診査を受診した場合、健康関連行事に参加した場合にポイントが貯まり、「すこやかチャレンジカード」に記録して行き、1か月ごとに市内19か所に設置された回収箱に提出する。貯まったポイントは500ポイントを上限として市内店舗の商品券や公共施設の利用券と交換できるほか、学校や保育園・こども園・自治会などに寄付することもできる。こうした取り組みを通して、市民の健康づくりを支援するとともに健康意識の啓発に努める。

〔感想〕

健康づくりを推進する取り組みとしては、なかなか面白いアイデアで、市内商店への経済的な波及効果も併せ持っている点や、平成 24 年から実施してきている中で毎年、少しずつ取り組み方を改善しながら、進めている点もあり、興味深く聞かせていただいた。

平成 27 年度には、3 か月以上「すこやかチャレンジ事業」に参加した方の中から、抽選により、自転車やオープンレンジ、電動歯ブラシ、体重計、万歩計などの商品が当たる公開抽選会を実施する取り組みをされており、より多くの市民に関心を持ってもらう工夫をしている。

年間予算約 600 万円で、参加者目標を 1800 人としている。初年度は 531 人の方が参加したようです。年々増加しているようです。

私も以前、健康診査で「要指導」になり、江津市の「健康づくり推進事業」の「健康教室」を受けた経験がありますが、毎日取り組む食事の目標や運動目標を決めても、なかなか継続できないことを覚えています。そうした時に、このような健康づくりの運動を支えてくれる取り組みは、なかなか素晴らしいと思います。取り入れられるところを提案していきたいと思います。

2. 島根県 松江市玉造温泉

「タマステージ」について

〔事業の概要〕

7 月 19 日～8 月 31 日の夏の間、毎日、野外特設ステージで、2 部形式の日替わりステージを実施している。第 1 部は、地元の芸達者な皆さまによる日替わりステージ。第 2 部は、安来節や出雲神楽の上演となっている。あわせて射的やダーツなどの夜店（1 回 200 円）も毎日、開店している。

ちなみに第 1 部のおもな出演団体は、吹奏楽の「松江ウインドアンサンブル」、JAZZ の「足塚カルテット」、女子ブラスバンドの「ザ・トウモローガールズ」、ホルンアンサンブルの「島根ホルンクラブ」などとなっている。

〔感想〕

まず、疑問に思っていたのは、2か月近い毎日のロングランのイベントなので、出演者の確保や夜店の確保がどのように運営しているのか？そしてその費用や収益はどうなっているのか？集客効果は上がっているのか。「玉造温泉」という知名度の高い観光地とはいえ、かなり困難なハードルの高い事業ではないかと思っていた。

事業説明を聞いて、納得した。ただ単なる思いつきによるイベント開催ではなかった。そこにいたるまでには、中心となったリーダーの卓越した発想とリーダーシップのもと、用意周到に準備を重ね、協議を重ねそれを実践に移していくスタッフ達の並々ならぬ尽力があった。

イベントをするは良い。ただし、何のためのイベントなのか（収益増加なのか・集客のためなのか等）。誰のためのイベントなのか（地元町民に来てもらうのか・観光客をターゲットにするのか・若い世代なのか・熟年世代なのか等）。それをはっきり定めて、意識して取り組むことが大事だと。

ターゲットは若い世代の女性とした。すばらしい発想だ。若い世代の女性が来るようになれば、男性が来る。話題になる。そういう発想である。そして、そのための観光案内パンフレットにことんこだわった。どこの観光地でも出している教科書のようなパンフレットは、やめようと。誰も読まない。若い世代が手に取って、見たくなるような写真に、こだわった「週刊誌」タッチのものにした。

そして、これがまたすごいことだが、旅行代理店に定期的を送ることをやめた。旅行代理店には全国から送られてくる膨大な観光案内パンフレットがあり、ほとんど役に立っていない。そのまま捨てられることになる。経費の無駄だということで、旅行代理店から、「送ってほしい」といわれるものを作り、まずは観光客が土産を買ったときに土産の一部として（サービスとして）このパンフレットを同封するという戦略をとった。

市の補助金に頼っていた運営から、集客が激増して、収益が上がり、地元の皆さんにも喜んでいただいている。成功事例だと思う。実際に、我々が視察した水曜日という平日のよるにもかか

ならず、実に多くの観光客でにぎわっていた。それも若い世代の男女、女性たちのグループなど。

「今日は少ない方です」との言葉に、絶句してしまった。

「気を抜くとすぐに衰退するのが観光産業です。」との言葉に、その覚悟の重さをずっしりと感じて帰った次第である。